

# わたしたちの身のまわりの自然では何が起こっているの？

世界や日本で様々な環境の変化が起きていること、それに対し、SDGsやパリ協定という、世界全体の約束事が決められ、それらに向けてみんなが行動していることが分かりました。では、わたしたちの身のまわりの自然では何が起こっているのでしょうか。

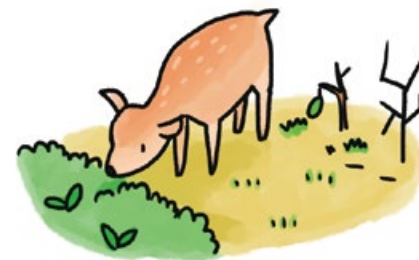
## 森の手入れが進まない

スギやヒノキなどの人工林は、定期的に間引きや伐採をしないと荒れてしまいますが、林業の不振で担い手が減り、管理が十分に行われない人工林が増えていきます。そのような人工林は、貯水機能が低下して土砂くずれが起こりやすくなり、生態系のバランスもくずれてしまいます。



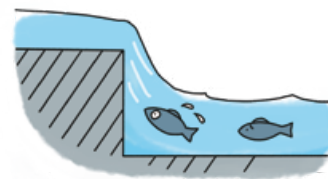
## 田畑や町にシカやイノシシが出てきて困っている

農作物が作られなくなった田畑はやぶになっていき、シカやイノシシにとって、食事をしたり隠れたりしやすい場所になります。こういった場所が増えると、シカやイノシシが田畑を荒らしたり、山から町に下りて来たりするため、わたしたちの暮らしがおびやかされています。



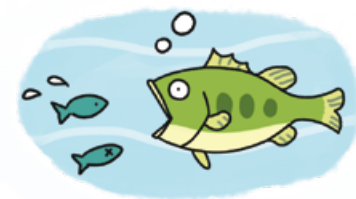
## 魚がすみにくい川になっている

災害防止のためにダムや堰がつくられ、護岸もコンクリート化されました。川と海を行き来する魚にとって、すみにくくなってしまいました。最近では、これらの魚の通り道を確保したものもありますが、以前よりすみにくくなっていることは間違いありません。



## 外来種が増えている

人が持ちこんだ外来種が、地域に元からいた生物を食べたり、すむ場所や食べ物をうばったりすることで、地域の生態系がおびやかされています。



## 自然の中で遊ぶ子どもがいない

子どもはのちの不思議や暮らしの成り立ちを、森・里・川・海をかけ回って知り、仲間とのきずなを深めるものです。子どもの安全はもちろん重要ですが、子どもが自然体験から学ぶことも多いはずです。



## 魚や貝、海藻が減っている

干潟や砂浜の埋め立て、ダムや堰による川から流れこむ栄養分の減少、地球温暖化による海水温の上昇などが原因で、食卓に欠かせない魚や貝、海藻が減っています。代わりに、海にはごみが目立つようになってきました。



## コラム 海洋ごみとマイクロプラスチック

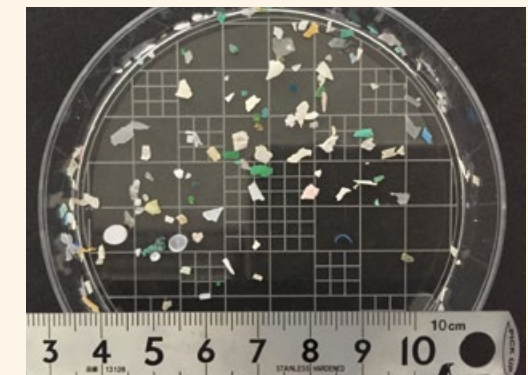
近年、海岸へ漂着したり、海に漂う海洋ごみが問題となっています。海洋ごみにはプラスチックが多くふくまれており、海洋の環境や観光・漁業などの経済活動へ影響をあたえています。また、中にはマイクロプラスチックと呼ばれる5ミリメートル以下のプラスチックも増えており、動物が飲みこむなど、生態系へ影響をあたえるとともに、海産物を通じて人の体に取り込まれ人体に影響を与えることが心配されています。

### ● 海岸に漂着した海洋ごみ



資料：岡山県

### ● マイクロプラスチック



資料：九州大学 磯辺研究室